

教育実習Ⅰ（幼稚園）の報告

広島文教大学教育学部教育学科

教授 上村 加奈

1 はじめに

本学では3年前期から4年前期にかけて、教育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを段階的に履修する。教育実習Ⅰは3年前期科目である。本学の特徴的な取り組みといえる1年後期科目「幼児の理解」、2年通年科目「幼児教育の体験活動」を履修し、幼児理解に基づく幼児教育の理解を図っている。

教育実習Ⅰは学内での学修を基本とし、幼児教育の基本に基づく実践力を養成することを目的としている。続く教育実習Ⅱ（幼稚園での2週間の実習）を見据えている。そこで、授業のねらいを教育実習Ⅱに臨む前に実践力を培うとしている。

2 実施概要

（1）実施スケジュール

授業内容は、指導計画案（以下、指導案と略記）の書き方と内容検討、模擬保育、学びの振りかえりで構成している。授業内容によって全体指導とグループ別指導の形態を用いている。

表1 授業内容とスケジュール

授業形態	授業回	主な内容
全体指導	第1回	オリエンテーション（教育実習Ⅰの位置づけ 授業のねらいと概要・実習資格）
	第2回	指導案立案の要点 模擬保育Ⅰ指導案の内容 指導案検討
グループ別指導	第3回	模擬保育Ⅰ指導案検討（教材研究、遊びの展開）
	第4～8回	模擬保育Ⅰ・実践の振りかえり／指導案検討
全体指導	第9回	模擬保育Ⅰのまとめ 模擬保育Ⅱに向けて
グループ別指導	第10回	模擬保育Ⅱ指導案検討（教材研究 遊びの展開）
	第11～15回	模擬保育Ⅱ・実践の振りかえり／指導案検討
全体指導	第16回	模擬保育Ⅱのまとめ・総括 教育実習Ⅱに向けて

（2）本年度の運営ならびに指導上の特徴

1) 保育実践と検討の充実を図るグループ編成の工夫

本科目を履修することにより、①幼児教育の基礎理解・幼児理解②指導計画案を立案する力③教材研究をする力④遊びを展開する力（幼児の様子を観察し、実態把握をする力・幼児の実態に応じて働きかける力・集団と個人に対応する力）⑤基礎技能を培うことを目指している。

グループ別指導により到達度の向上を図るため、履修学生を5グループに編成し、指導案検討グループと模擬保育グループを設定した。（表2）指導案検討グループはゼミごとのグループ分けとし、各指導案検討グループから1～2名で編成したメンバーで模擬保育グループを作った。指導案検討グループは、保育内容の5つの領域を意識した遊びの内容で指導案を作成することとし、「保育内容の

指導法」の学びを踏まえ、実習において多様な内容で部分実習を実践できるようにした。

グループ別指導時の授業形式は、前半に模擬保育グループメンバーで作成した指導案を基に模擬保育を行い、保育実践内容を振りかえって学びを深める。後半に指導案検討グループメンバーが集い、各模擬保育グループの実践と協議内容を報告する。学びを活かして次回以降の指導案検討を行う。

表2 グループ編成

指導案検討	模擬保育				
	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ	Eグループ
指導案検討1グループ	1A×2名	1B×2名	1C×2名	1D×2名	1E×1名
指導案検討2グループ	2A×2名	2B×2名	2C×1名	2D×2名	2E×2名
指導案検討3グループ	3A×2名	3B×2名	3C×2名	3D×1名	3E×2名
指導案検討4グループ	4A×1名	4B×1名	4C×2名	4D×2名	4E×2名
指導案検討5グループ	5A×1名	5B×1名	5C×2名	5D×2名	5E×2名

2) 改定指導案の充実を図る

今年度から改定指導案の内容をさらに充実させることに重点をおいた。作成した指導案を基に模擬保育を行い、保育実践内容を振りかえって学びを深める形式で授業を行うため、改定指導案に学修した内容を反映させることとした。模擬保育の協議内容を、各自が指導案検討グループに報告するというワールドカフェ形式を取り入れ、履修者全員が報告者となる。言語化することで経験したことが整理され、他グループの報告と比較して相違点や類似点を見つけることで、保育実践の基本や遊びの内容による留意点が理解できている。そうして学んだ内容で改定指導案作成に取り組み、実践前の指導案と改定後の指導案の違いを把握させた。学生は、模擬保育において保育実践が予定通り進まないことや、子どもが想定外のことに興味を示すなどの経験を通して指導案を検討する意味を理解しはじめた。模擬保育の回数を重ねるごとに課題の内容をつかんでいった。子ども理解や教材研究の課題もあれば、遊びの展開による課題もあった。課題を踏まえて改定指導案作成や次回以降の指導案作成に取り組んだ。

3 成果と改善に向けた課題

1) 学生の主体的な取り組み

指導案検討グループはゼミメンバーを中心に編成した。昨年度まで、オンライン併用で授業が実施される状況で、少人数で構成されるゼミメンバーとの交流の機会も多いとは言えない状況であった。そのあたりも影響しているのか、ゼミメンバーとの交流に喜びを感じ、連携して取り組む姿が多く見られた。予てより事前学修として、模擬保育を行う前に通称「モギモギ」といわれる模擬保育の事前取り組みをしている。今年度は、モギモギをゼミメンバーの協力体制のもとで行う様子を改めて把握し、内容が充実していることを再確認した。モギモギにともに取り組んだメンバーは、模擬保育実践後の協議内容への関心も高かった。模擬保育の様子を撮影して振りかえりに活用した教員がいた。学生から撮影を希望する声があがり、履修学生に了解を得て実施したグループもあった。能動的な受講姿勢を確認するとともに、次年度の全体的な導入を検討したい。

2) 実践の振りかえり

省察的実践家として取り組むことが求められている。実践の振りかえりの意味を理解し取り組むことによる自身の成長を実感できる意義は大きい。次年度以降も、改定指導案の充実に向けた取り組みを継続していく。模擬保育I・IIのまとめの際の振りかえりやフィードバックの検討を次年度の課題とする。